

令和元年10月20日、「ぼうさいこくたい2019」において、名古屋駅地区庄内川タイムラインを事例として、名古屋市・内閣府・庄内川河川事務所の主催により、名古屋駅地区街づくり協議会の協力を得て、「水害から命を守るためにやるべきことは何か」を議論しました。



コーディネーター  
松尾一郎氏 (東京大学  
大学院客員教授)



パネリスト  
西田将人  
(庄内川河川事務所長)



パネリスト  
坂野正典氏 (名古屋市  
防災危機管理局次長)



パネリスト  
岸田晃彦氏 (名古屋駅  
地区街づくり協議会事  
務局長)



パネリスト  
佐藤和輝氏 (中京テレビ  
アナウンサー)



会場の様子

命を守る3つの柱

- ・危機感の共有ができる社会
- ・それぞれが起こる被害の想像ができる
- ・その上での正しい行動



トークセッションの様子

■松尾氏:「それぞれの立場で**ワンフレーズ**。命を守るためにやるべきことは何？」

■西田氏:『**水防災意識社会**』施設の能力を上回る洪水は発生するということを皆さんに認識して頂き、社会全体で水防災の意識を高めることが重要。河川管理者としても、ただ情報を出すだけでなく、メディアとも連携してわかりやすく情報を発信していきたい。

■佐藤氏:『**あなたの番です!!**』会場に集まっている防災意識の高い皆さんに、より高い防災意識を持ってもらい、横に広めていただきたい。

■坂野氏:『**当事者**』当事者意識を持っている消防職員から市民へ当事者意識を広めたい。また、名古屋市職員全員に当事者意識を持ってもらいたい。そのために尽くしていくことを誓います。

■岸田氏:『**まさかの壁**』自分は大丈夫だと思った瞬間に防災に関する思考がとまってしまう。まさかの壁の向こうにあるリスクを知り、命を守るために事前に考えることが必要。「まさかの壁」をぶち壊して日頃から防災意識を高めていただきたい。